

私立大学研究ブランディング事業

28年度の進捗状況

学校法人番号	181001	学校法人名	金井学園		
大学名	福井工業大学				
事業名	『宇宙』事業推進のために地域と協働する“ふくいPHOENIXプロジェクト”				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	2080人
参画組織	地域連携研究推進センター・工学部・環境情報学部				
事業概要	<p>◆本学は、北陸最大の直径10mパラボアンテナ等を備え、『宇宙』利用研究をブランドとしてきている。一方、福井では平成31年度の県民衛星打ち上げを目標に衛星開発計画が推進されると共に、駅前に『宇宙』をテーマとする大型施設が建設された。このような背景から地域と本学が連携しながら、本事業によって『宇宙』に関するブランド力を向上することにより、福井での『宇宙』を基盤とする産業育成、観光・文化の振興に繋げる。</p>				
①事業目的	<p>本学がこれまでに培ってきた『衛星情報活用研究』と本学の特徴である『地域貢献』活動を、本事業を通して更に発展させる。具体的には、(A)衛星利用研究基盤を活用・発展させ、宇宙関連研究の独自性を明確に打ち出す。(B)地域の観光・文化の目玉として宇宙を取り入れる。(C)新しい地域産業として宇宙関連産業の育成を図り、縦横断的に地域活性化の方策を導く。</p>				
②28年度の実施目標及び実施計画	<p>各研究軸の実施目標及び実施計画を以下に示す。</p> <p>A.宇宙研究軸 (目標:超小型衛星を開発可能なハード的環境および開発体制を整える。衛星PHOENIX1号機概念設計を行う。計画:平成29年1月中に開発スケジュール、開発体制及び必要機材を確定。平成29年3月中旬を目途にクリーンブース及び必要機材の設置。平成29年3月中に衛星概念設計書を作成。)</p> <p>B.観光文化研究軸 (目標:基盤組織『宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会』を立上げ、関連組織との打合せを行う。基盤組織をベースに、宇宙を福井の特徴とするための課題を整理し、課題解決の方策を検討。計画:平成28年夏に基盤組織を立上げ、年度内に研究会を実施。平成28年12月を目途に、宇宙を福井の特徴とするための課題を整理し、平成29年2月を目途に外部有識者からの意見聴取。平成29年3月中に、課題解決のための方策を提案。)</p> <p>C.地域振興研究軸 (目標:衛星データによる地域環境情報配信コンテンツ内容の決定、準備。自治体/大学/高専/企業との打合せを実施し、地域連携・共同研究テーマの決定。計画:平成28年度の検討を基に、平成29年2月を目途に配信コンテンツを決定及び、地域連携・共同研究テーマの決定。)</p> <p>ブランディングの取組 (目標:本事業が全学的ブランドとしての重要な取組みであることを、教職員・学生に周知意識共有を図る。本事業の学外における知名度向上に努める。計画:研究ブランディングチームの体制・主旨の再確認のための打合せ実施。平成28年12月に公開講座を開催。平成29年1月中旬に本事業のホームページの開設。平成29年3月中に、SNSの開設及び広報誌を発行。本事業に関係したマスコミ掲載を行う。)</p>				

<p>③28年度の事業成果</p>	<p>各研究軸の事業成果を以下に示す。</p> <p>A.宇宙研究軸 (開発環境・課題及び開発スケジュールを確定。シナジー館5階にクリーンブースを設置、衛星の概念設計書を作成。)</p> <p>B.観光文化研究軸 (基盤組織「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」を平成28年7月14日付で立上げ、第1回研究会を実施。セーレンプラネット周辺にて、宇宙を福井のブランドにすることに対する県民・市民へのアンケートを実施し課題を抽出。その結果を踏まえ「福井の夜空の価値向上のための夜空の暗さ計測ネットワークの構築」を、第2回研究会で提案、意見交換。平成29年2月7日に外部有識者との打合せを実施。)</p> <p>C.地域振興研究軸 (データの配信内容について、農林業の観点から検討を行い大型衛星データNDVI指標のマップ及び、特定地点の時系列を配信することから始める準備を開始。衛星から得られる圃場の分光反射スペクトルの精密農業への利用研究において、平成28年度に福井県農業試験場との共同により水稻圃場における葉色及び分光反射スペクトルデータを取得し、データより葉色を推定する基礎実験を実施。その結果を踏まえ平成29年度の実施内容の基本的な枠組みを決定。地域防災について、ブランディング事業への展開方策について学内打合せを実施。)</p> <p>ブランディングの取組 (平成29年1月・2月に、本事業に関わる教職員への打合せを実施し本事業の主旨を確認。また、連携自治体・商工会議所に出向き協力関係を確認。平成28年12月17日公開講座「あなたも宇宙に手が届く～福井に身近な宇宙とその展望～」を開催、学外者や教職員・学生に本事業の周知。平成29年1月13日付にて本事業のホームページ開設。平成29年2月にtwitterを開設。平成29年3月中、Youtubeの開設及び広報誌を発行。本事業に関して採択後、9件の新聞掲載。)</p>
<p>④28年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 平成29年4月12日に開催した、点検評価委員会(評価者:3名)の結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年次目標、実施計画については3つの研究軸、ブランディングとも計画通り実施され、当初目標の達成は評価できる。但し、今年度の目標と成果は今後の研究フレームワークの形式であるため、本年度に得られた成果、見出された課題等を十分検討し、最終目標達成のため詳細な研究実施計画の立案と着実な実行を望む。 ・今年度の計画項目については、程度の差はあるものの限られた時間の中で全て実施している。但し、適用範囲をやや広げすぎている事業もある。平成29年度は、本事業の成果、真価が問われるため、実施計画を策定するにあたり着実に成果が見込まれるもの、相応の準備を要するものと明確に区別することを望む。 ・達成度は全て100%であった。宇宙研究軸は、本事業のメイン内容であるため現状のペースを望む。観光文化研究軸は、アンケート調査だけでは不十分に感じる項目もあるため、具体的な行動計画を望む。地域振興研究軸については、早急な事業展開を望む。 <p>(外部評価) 平成29年3月14日に本学にて開催した外部評価委員会における評価を含む総勢7名の評価者による結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備段階としては事業が達成できている。来年度よりの事業活動に期待。 ・3つの研究軸の進捗は良好である。 ・大学が有する独自の知見、情報を地域資源とのマッチングにおいて活かせるよう、今後、地域との情報共有、連携のもと実のある事業になるよう期待。 ・スタートとしては順調である。ブランディングの最終的な形を推定し、評価方法などの明確を今後も進めるべき。 ・他の関連事業との連携も進めるべき。 ・ハピリン及びセーレンプラネットへの来訪者アンケートにより「宇宙」に対する、市民意識を測る手法はよいが、分析の掘り下げ方は課題である。 ・ブランディングについて、マスコミとの連携を図るなども含めて次年度に繋いでほしい。 ・次年度以降、具体化を進める事業、見直しが必要な事業、追加が必要な事業の抽出、仕分け課題である。
<p>⑤28年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成28年度は予算額¥32,217,000円に対して、¥31,520,776円執行した。 なお、事務局である地域連携研究推進センター社会連携推進課において厳正に管理している。</p>